

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300011		
法人名	社会福祉法人小松島敬和会		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	徳島県小松島市坂野町字樫のべ35番地		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季ごとの行事が充実しており、家事や畑作業を、スタッフと利用者が一緒にやっている。ボランティアの慰問も多く、充実した毎日を送っている。地域でのイベントにも参加し、地域との交流も行っている。料理については、ほとんど冷凍食品を使用せず、新鮮な食材で、四季折々の調理を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、のどかな田園地帯に位置している。利用者は、法人や事業所の実施する交流行事等の機会に馴染みの友人等と交流を図っている。同一法人の運営する医療機関が近隣にあるため、利用者や家族の安心に繋がっている。医師である代表者は、週1回、往診を行ったり、管理者から日々のできごとや利用者の状態報告を受け、つねに状況把握を行っている。また、毎月のカンファレンスにも参加し、理念の“住み慣れた地域のなかで、安心と尊厳を守る”を実践している。運営推進会議では、利用者や家族、地域住民の代表、市担当者等の出席を得ており、活発に意見交換を行っている。食事では、利用者の希望に応じた献立を作成している。利用者職員は、ともに調理を行い、和やかな雰囲気なか食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23、24、25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に職員全員が理念を言い、理念に沿った介護が出来るように、一人一人が心がけている。	玄関や事務室等の目につきやすい場所に理念を掲げて、職員間で共有化を図ったり、利用者や来訪者に周知したりしている。全職員で、理念について話しあう機会を設けるなどして日ごろのケアを振り返り、質の高い支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度は、いろいろなサークルの方が催しに来て下さって、地域の方たちとの交流を保つ事ができる。	地域の運動会や敬老会へ参加している。年1回、地域で開催する福祉まつりに利用者の作品を出展している。大正琴サークルや幼稚園児の来訪があり、地域との交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他の講習会に参加し、学んだ事を苑内で発表し、日々活かせるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で他の施設の方からの意見などを参考にし、サービス向上に活かしているように努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域の代表者、市担当職員等の参加を得ている。会議では、事業所の実践報告を行ったり、活発に意見交換を行ったりして、サービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小松島市介護福祉課と連携を密に取り、グループホームの実情やサービスの取り組みを伝えたり、情報交換をしたり、常に協力して頂いている。	日ごろから、市担当者とは連絡を取りあっている。事業所の実情や取り組み等を伝えるなどして協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会を定期的で開催し、職員一人一人が、身体拘束の行為を理解し、利用者に苦痛を与えないように心がけている。	毎月、職員研修を開催するなどして、指定基準にある禁止行為について理解と見識を深め、身体拘束をしないケアに繋げている。玄関や事業所内のドア等を開錠し、見守りを中心とした支援に努めることで、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、利用者に嫌な思いをさせないように注意を払い、虐待防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、学ぶ機会をもつようしている。個々の必要性を関係者と話し合い、必要に応じ、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定時に、利用者や家族の不安や疑問に対して、十分に説明をし、理解し、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、利用者や家族の意見、要望を職員に伝える機会を設けている。苦情や相談に早急に対応するように努めている。	日ごろの利用者との会話のなかで、さりげなく意向を把握したり、家族の来訪時に要望や意見を聞いたりしている。出された意見は、管理者や職員間で検討し、日ごろの支援に繋げている。また、意見箱を設置している。出された苦情や相談には、迅速な対応を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に運営に関する職員の意見や提案を話し合い、職員の働く意欲や質の向上に反映している。	朝の申し送りや月1回の職員会議の際、管理者や職員間で運営面について話しあっている。管理者は、職員の声に耳を傾けて相談や助言等を行い、働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得に応じて手当がある。また個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働ける職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に参加し、職員一人一人が働きながら技術や知識を身に付けることが出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が関連法人の施設や他のグループホームとの交流をする機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望を受け止め耳を傾けながら、関係性を築き、本人の安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やひかり便りを通じて現在の状況を説明し、本人や家族が困っていることや不安なこと、要望に耳を傾け、意向に沿えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し送り時に意見を出し合い、出来ることは早急に対応し、実行するようにし、サービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理のお手伝いや洗濯たたみ、畑作業を職員と一緒にすることで、共に過ごし支え合う関係を築き、必要な人と感じて頂くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに日々の生活状況を家族に伝え、また本人が家族に日々の状況を話会えるような関係作りを築いている。行事等を連絡し、参加して頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由な時間の面会や、地域での行事に参加をしたり、自宅、近所までのドライブや外出などにより、これまでの関係が途切れないように支援している。	家族の協力を得たうえで、馴染みの理・美容院や墓参りなどへの外出を支援している。また、利用者一人ひとりの思い出の場所や自宅周辺へドライブに出かけることもある。友人や知人の来訪時には、時間の制限を設けることなく、これまでの関係を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけホールで過ごす時間を多く持ち、職員は食事、レクリエーションを通じて利用者同士が関わりあえる状況を多く作れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所された方のお見舞いに伺い本人、家族の相談、支援に努めている。また、退所後もお手紙を添えて写真などを送り、これまでの関係性を大切にしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人や家族から、思いや希望を伺い一人一人の希望や要望を把握している。また折をみて、再確認を行っている。	職員は、日ごろの生活のなかで利用者とのコミュニケーションの機会を多くもつよう努め、希望や意向の把握に努めている。買い物やドライブの支援を行って気分転換を図ったり、カラオケなどを楽しんだりして利用者一人ひとりの思いにそった支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの情報は、入所時又は、入居後に本人又は家族に話を伺うようにしている。本人や家族との会話の中で生活歴などの情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者の一日の過ごし方や心身の状態を観察している。気づいたことは、日誌に書き留め情報を供用し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で、本人に、面会時などに家族から意見や要望を聞き、本人、家族、職員や主治医を交えてカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	日ごろの利用者との関わりのなかで、本人や家族の意見や要望を把握している。把握した要望等は全職員で協議している。月1回、カンファレンスを開催し、現状に応じた介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り時に、記録での情報を供用し、利用者へのケアに実践するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて対応している。隣接する特養、デイサービス、生活支援ハウスと交流し、活動の場を広げている。要望や、必要に応じて、希望に添えるよう柔軟な支援やサービスに応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園や小学校、公民館での催しに参加し、地域と交流している。保育園やボランティアの方に来苑して頂き、一緒に楽しい時間をすごして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関があり、週二回往診での診察が出来る様に支援している。通院時には、移送介助、受診時の付き添いの支援を行っている。状態が悪化した時は、家族、本人に説明をし、適切な医療が受けられるように努めている。	同一法人の運営する医療機関から週2回の往診がある。家族の協力を得たうえで、利用者のかかりつけ医や専門医の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と医療連携体制をとっており、アドバイスをもらっている。また、往診時に、担当医、看護師に報告、相談をし、適切な受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関と連携し、入院時、退院時には、医師、看護婦と相談し、情報交換を行い、状態に合わせて適切な対応ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、本人又は家族と話し合い、本人や家族の希望を尊重し、それに沿うように医療機関と職員が連携を取りながら支援している。	本人や家族と話しあう機会を設けて希望や要望を出してもらい、事業所のできることにについて説明を行っている。協力医療機関と密に連携を図りつつ、本人の希望に応じた終末期の実現にむけ取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、応急手当、初期対応のマニュアルを作成し、定期的に研修を行い、職員全員が把握し実践力を身に付けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルを作成している。職員全員で定期的に防災訓練や避難訓練を実施している。また災害時に必要な緊急連絡表やお薬説明書をファイルにまとめている。	防災マニュアルを作成している。年2回、利用者とともに避難訓練を実施している。市消防署や消防団の協力を得ることのできる体制を構築している。しかし、夜間を想定した避難訓練等を実施するまでには至っておらず、具体的な対応策も策定していない。	災害は、いつどのような時間帯に発生するか分からないため、夜間も含めた災害時の避難策について検討し、利用者の安全確保に向けた事業所としての取り組みを行われたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守り、誇りやプライバシーを損なわないように努めている。また排泄時、入浴時には、必ずドアを閉めて対応している。訪室時には、必ずノックして対応している。	日ごろの利用者との関わりのなかで、誇りやプライバシーを損なうことのないよう、声かけや接し方に留意している。年1回、職員研修を開催し、職員間で意識共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何をしたいのかを聞き取り、本人の希望に沿った支援をするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がその日をどのように過ごしたいか日常生活から聞き取り、利用者に沿った支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、利用者本人が衣服を選び希望の髪型やお化粧を楽しんでもらえるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の力を活かして、野菜の皮むきや配膳、下膳のお手伝いを職員と一緒にやっている。	利用者は、一人ひとりの力量に応じて野菜の皮むきや机拭きなどの役割を担っている。利用者と職員は、家庭的な雰囲気なか会話をしみつつ食事の準備を行っている。菜園で収穫した野菜等を食材として活用することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の健康状態や嚥下状態を把握し、軟食やうす味にしたり、食べやすい形状にしたり、気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きやうがいを日課にしている。自分で歯磨きやうがいが出来ない利用者には、職員がお手伝いしている。週に一度義歯を洗浄し、清潔に保つように努めている。		

自己	外部	項目	1		外部評価	
			自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、自分で排泄が出来る利用者には、声かけを行い、自分で排泄が出来ない利用者や尿意、便意を感じない利用者には、トイレ介助を行い、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの習慣や生活リズム、排泄パターンを把握したうえで、トイレ誘導や声かけを行っている。夜間もトイレでの排泄を支援しており、ポータブルトイレに座ってもらうなどして排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂取できる献立を考え実施している。食事の前の体操や歩行訓練を利用者の状態に合わせて支援をしている。場合によっては、下剤で調節している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に沿うように努めている。車いすの利用者には、職員が二人で入浴介助を行い、ゆっくり湯船につかって頂き、入浴を楽しんで頂くように支援している。	基本的に一日おきの入浴となっているが、希望に応じて毎日入浴することのできる体制を設けている。車椅子の利用者には、職員2人体制で入浴介助を行うなどして、ゆっくりと入浴を楽しむことができるよう支援している。入浴を拒む利用者には、職員が変わるなどして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況や、体調を考慮し、日中は、ドライブやお買いものや散歩に出かけ、昼夜逆転をしない様に心がけ、夜間は気持ちよく眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の使用法や薬の変更などを把握し常に確認し合っている。お薬説明書を活用し、用法、用量、副作用などを理解し万全の体制で支援に当たるように努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味に合わせてボール投げやカラオケ、トランプ、カルタ、塗り絵などを楽しみ、畑作業や家事のお手伝いをして頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の要望に出来るだけ沿うようにドライブやお買いものを楽しんで頂いている。職員同士が話し合い、公園や庭苑へ出かけたり、音楽会、フラダンスなどにも参加され、楽しんで頂くように努めている。	本人の外出への要望を把握し、心身状態に留意したうえで、事業所周辺の散歩や花見やドライブ、買い物等の外出を支援している。また、家族の協力を得て、墓参りなどへ出かけることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族が希望した場合は、自己の責任でお金を所持して頂いている。お買い物の際は、利用者が自分で支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の希望時には電話をして頂いたり、お手紙を出しに郵便局に行ったりと、家族や大切な人とやりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下にソファを置き、談笑や世間話をしやすいようにしている。また、季節の花や飾り付け(お雛様やこいのぼり)をして季節感を楽しんでもらえるような工夫をしている。	玄関に花を生けたり、ホールや階段に利用者や職員でつくった装飾を行ったりして、季節感を楽しむことができるよう支援している。また、畳の間では、洗濯物をたたんだり、利用者同士が会話を楽しんだりしている。家庭的で居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士がホールや和室、ソファで自由に楽しく過ごして頂けるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して使い慣れた家具や馴染みのある道具を持って来ていただいたり、写真や利用者が作った作品、塗り絵などを飾ったりして、リラックスして過ごせるように工夫をしている。	和室と洋室の居室があり、自宅での生活の延長となるよう整備している。利用者の使い慣れた家具や好みの装飾品を持ち込んでもらい、居心地良く過ごすことのできる工夫を行っている。荷物は、災害時の配慮等からクローゼットに整理しており、安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下、階段に手すりが付いており、全館バリアフリーになっているので、自分で出来ることは自分で頂いている。自室の前に写真を飾ったり自分の部屋だと理解できるように工夫されている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に職員全員が理念を言い、理念に沿った介護が出来るように、一人一人が心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月に一度は、いろいろなサークルの方が催しに来て下さって、地域の方たちとの交流を保つ事ができる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他の講習会に参加し、学んだ事を苑内で発表し、日々活かせるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で他の施設の方からの意見などを参考にし、サービス向上に活かしているように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小松島市介護福祉課と連携を密に取り、グループホームの実情やサービスの取り組みを伝えたり、情報交換をしたり、常に協力をして頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会を定期的に関催し、職員一人一人が、身体拘束の行為を理解し、利用者に苦痛を与えないように心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、利用者に嫌な思いをさせないように注意を払い、虐待防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、学ぶ機会をもつようしている。個々の必要性を関係者と話し合い、必要に応じ、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定時に、利用者や家族の不安や疑問に対して、十分に説明をし、理解し、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、利用者や家族の意見、要望を職員に伝える機会を設けている。苦情や相談に早急に対応するように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に運営に関する職員の意見や提案を話し合い、職員の働く意欲や質の向上に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得に応じて手当がある。また個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働ける職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に参加し、職員一人一人が働きながら技術や知識を身に付けることが出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が関連法人の施設や他のグループホームとの交流をする機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2	2	2
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望を受け止め耳を傾けながら、関係性を築き、本人の安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やひかり便りを通じて現在の状況を説明し、本人や家族が困っていることや不安なこと、要望に耳を傾け、意向に沿えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し送り時に意見を出し合い、出来ることは早急に対応し、実行するようにし、サービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理のお手伝いや洗濯たたみ、畑作業を職員と一緒にすることで、共に過ごし支え合う関係を築き、必要な人と感じて頂くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに日々の生活状況を家族に伝え、また本人が家族に日々の状況を話会えるような関係作りを築いている。行事等を連絡し、参加して頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由な時間の面会や、地域での行事に参加をしたり、自宅、近所までのドライブや外出などにより、これまでの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけホールで過ごす時間を多く持ち、職員は食事、レクリエーションを通じて利用者同士が関わりあえる状況を多く作れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2		
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所された方のお見舞いに伺い本人、家族の相談、支援に努めている。また、退所後もお手紙を添えて写真などを送り、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人や家族から、思いや希望を伺い一人一人の希望や要望を把握している。また折をみて、再確認を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの情報は、入所時又は、入居後に本人又は家族に話を伺うようにしている。本人や家族との会話の中で生活歴などの情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者の一日の過ごし方や心身の状態を観察している。気づいたことは、日誌に書き留め情報を供用し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で、本人に、面会時などに家族から意見や要望を聞き、本人、家族、職員や主治医を交えてカンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り時に、記録での情報を供用し、利用者へのケアに実践するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて対応している。隣接する特養、デイサービス、生活支援ハウスと交流し、活動の場を広げている。要望や、必要に応じて、希望に添えるよう柔軟な支援やサービスに応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2		
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園や小学校、公民館での催しに参加し、地域と交流している。保育園やボランティアの方に来苑して頂き、一緒に楽しい時間をすごして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関があり、週二回往診での診察が出来る様に支援している。通院時には、移送介助、受診時の付き添いの支援を行っている。状態が悪化した時は、家族、本人に説明をし、適切な医療が受けられるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と医療連携体制をとっており、アドバイスをもらっている。また、往診時に、担当医、看護師に報告、相談をし、適切な受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関と連携し、入院時、退院時には、医師、看護婦と相談し、情報交換を行い、状態に合わせて適切な対応ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、本人又は家族と話し合い、本人や家族の希望を尊重し、それに沿うように医療機関と職員が連携を取りながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、応急手当、初期対応のマニュアルを作成し、定期的に研修を行い、職員全員が把握し実践力を身に付けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルを作成している。職員全員で定期的に防災訓練や避難訓練を実施している。また災害時に必要な緊急連絡表やお薬説明書をファイルにまとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2		
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守り、誇りやプライバシーを損なわないように努めている。また排泄時、入浴時には、必ずドアを閉めて対応している。訪室時には、必ずノックして対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何をしたいのかを聞き取り、本人の希望に沿った支援をするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がその日をどのように過ごしたいか日常生活から聞き取り、利用者に沿った支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、利用者本人が衣服を選び希望の髪型やお化粧を楽しんでもらえるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の力を活かして、野菜の皮むきや配膳、下膳のお手伝いを職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の健康状態や嚥下状態を把握し、軟食やうす味にしたり、食べやすい形状にしたり、気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きやうがいを日課にしている。自分で歯磨きやうがいが出来ない利用者には、職員がお手伝いしている。週に一度義歯を洗浄し、清潔に保つように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、自分で排泄が出来る利用者には、声かけを行い、自分で排泄が出来ない利用者や尿意、便意を感じない利用者には、トイレ介助を行い、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂取できる献立を考え実施している。食事の前の体操や歩行訓練を利用者の状態に合わせて支援をしている。場合によっては、下剤で調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に沿うように努めている。車いすの利用者には、職員が二人で入浴介助を行い、ゆっくり湯船につかって頂き、入浴を楽しんで頂くように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況や、体調を考慮し、日中は、ドライブやお買い物や散歩に出かけ、昼夜逆転をしない様に心がけ、夜間は気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の使用法や薬の変更などを把握し常に確認し合っている。お薬説明書を活用し、用法、用量、副作用などを理解し万全の体制で支援に当たるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味に合わせてボール投げやカラオケ、トランプ、カルタ、塗り絵などを楽しみ、畑作業や家事のお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の要望に出来るだけ沿うようにドライブやお買いものを楽しんで頂いている。職員同士が話し合い、公園や庭苑へ出かけたり、音楽会、フラダンスなどにも参加され、楽しんで頂くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族が希望した場合は、自己の責任でお金を所持して頂いている。お買いもの時は、利用者が自分で支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時には電話をして頂いたり、お手紙を出しに郵便局に行ったりと、家族や大切な人とやりとりが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下にソファを置き、談笑や世間話をしやすいようにしている。また、季節の花や飾り付け(お雛様やこいのぼり)をして季節感を楽しんでいただけるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士がホールや和室、ソファで自由に楽しく過ごして頂けるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して使いなれた家具や馴染みのある道具を持って来ていただいたり、写真や利用者が作った作品、塗り絵などを飾ったりして、リラックスして過ごせるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下、階段に手すりが付いており、全館バリアフリーになっているので、自分で出来ることは自分でして頂いている。自室の前に写真を飾ったり自分の部屋だと理解できるように工夫されている。		